

会 議 録

会 議 の 名 称	弘前市社会教育委員委嘱状交付式、組織会 及び第1回弘前市社会教育委員会議
開 催 年 月 日	平成30年8月1日(月)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時30分 から 午後4時10分まで
開 催 場 所	弘前市岩木庁舎 多目的ホール
議 長 等 の 氏 名	委員長 生島 美和
出 席 者	生島 美和 委員長・佐藤 義光 副委員長 小山内 剛 委員 ・成田 隆道 委員 成田 むつ子 委員・阿部 精一 委員 田村 笑美子 委員・松本 大 委員 羽場 比呂子 委員・高木 幸路 委員
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	生涯学習課長 戸沢 春次 生涯学習課課長補佐 熊谷 克仁 図書館・郷土文学館運営推進室長 庄司 輝昭 博物館長兼高岡の森弘前藩歴史館長 加藤 裕敏 中公公民館長 竹内 勇造 中央公民館岩木館長 伊藤 文彦 中央公民館相馬館長 三上 淳 中央公民館学習支援係長 竹原 正澄 生涯学習課主幹兼生涯学習係長 古川 五月 生涯学習課生涯学習係総括主査 藤田 真徳 生涯学習課生涯学習係主事 成田 妃呂美 生涯学習課生涯学習係主事 柴田 蒼介
会 議 の 議 題	弘前の社会教育について
会 議 結 果	・「弘前の社会教育」に基づき、各施設の主要事業や社会教育委員の役割について説明、各委員からの質問や意見を伺った。

<p>会議資料の名称</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 【事前配布資料】 ・ 弘前市社会教育委員の役割等について ・ 弘前市社会教育委員名簿 ・ 弘前市社会教育委員設置条例 ・ 弘前市社会教育委員の会議運営規則 ・ 中南地方社会教育委員連絡協議会会則 ・ 青森県社会教育委員連絡協議会会則 ・ 弘前の社会教育
<p>会議内容</p> <p>(発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>○弘前市社会教育委員委嘱状交付</p> <p>○組織会（委員長・副委員長選出）</p> <p style="padding-left: 40px;">委員長 生島 美和</p> <p style="padding-left: 40px;">副委員長 佐藤 義光</p> <p>○第1回社会教育委員会会議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 会議 4. 閉会 <p style="text-align: center;">~~~~~</p> <p>会議</p> <p>(議長)</p> <p>平成30年度第1回弘前市社会教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>弘前市社会教育委員の会議運営規則第4条に基づきまして、会議は在任委員の半数以上の出席をしなければ、開くことが出来ないとっております。</p> <p>本日は、10名が出席しており、定数に達していますので、会議は成立しているということで進めさせていただきます。</p> <p>議事録の署名委員は、小山内委員と、成田むつ子委員にお願いします。</p> <p style="text-align: center;">~~~~~</p> <p>案件「弘前の社会教育」について</p> <p style="padding-left: 40px;">(事務局から「弘前の社会教育」について概要説明)</p> <p>(議長)</p> <p>社会教育委員の会議が今期初めてですので事業を説明いただいたのですが、社会教育委員の会議がどのように関わってくるのか、直接関わるものや案内があるものもありますので、その辺りの補足や確認をとらせていただきます。</p> <p>まず、生涯学習課の研修事業に関しては、さきほど話のありました公民館の職員研修などが実施されているところです。各職員の顔合わせなどがあつたりします。この場には社会教育委員の方々にもお声掛けさせ</p>

ていただいております、公民館職員の研修と一緒に混ざっていただくとか、社会教育委員として公民館の職員方にも顔見せする機会ということで、これからも案内があるのではないかと思います。

それから、社会教育関係団体などへの助成というのも生涯学習課の大きな仕事であります、これに関しては社会教育委員の意見を聞くということがあります。次回開かれる会議の中ではこういった社会教育関係団体の助成についての意見というのが議題にあがってくるかと思いません。これに関しては、今までですと例えば去年、一昨年問題になっていたPTAの執行の問題というのが実はここ社会教育委員の会議でも繋がってきたものでありますので。大変重要な事ですので頭に入れておいていただければと思います。

公民館の事に関しましては、学区まなびいの説明もいただいたのですが、この学区まなびいというのが弘前市特有の制度になっています。つまり何かというと、中央公民館が管轄している地域には非常に多くの方が住んでいて小学校もたくさんあるのですが、ここにそれを分割するような地区公民館がないのです。地区公民館12館というのは全部中心市街地から離れた周辺部になっているということです。中央公民館で人口が多い所に地区公民館がないので、小学校区単位で公民館的な活動をしているものです。それを住民主体でするにあたり、中央公民館で支援をしていくことで、住民主体の社会教育活動を促進するというシステムになっているということです。これに関しましても、4月に住民の運営委員会の方々が集まって、企画会や顔合わせの会、今年度の計画を説明される会がありまして、また、2月3月になるかと思えますけれども報告会があったりしますので、そちらの方も社会教育委員の方々にはお声掛けがあるかと思えます。ご意見等お話しいただく機会があるかと思えます。

土曜教室というのは子どもクラブ事業ですけれども、これに関しましても今、政策としても進んでいる土曜教室に係わってきておまして、国や県からの補助金によって進められています。運営委員を設置して意見、助言をしていくということになってはいますが、その運営委員がこの社会教育委員としてあてはめられております。つまりは、子どもクラブに関して、社会教育委員が運営委員という形になっておりますので、この件について特記してご審議いただくこともこれからあるということでお含みおきいただければと思います。

それから、弘前市特有のあり方なのですが、市町村合併があったことにより相馬館と岩木館が中央公民館相馬館、中央公民館岩木館としてあります。いわゆる相馬地域、岩木地域を管轄地区にしているもので、それ以外の地域は地区公民館になりますが、それらが見えないのではないかなというようなことがありまして、前期の2年間で教育長宛てに提案書を出させていただいた内容というのはまさにそこなのですが。地区公民

館の活動ももっと見えるようにしていくということが必要なのではないかと、そうしてもらわないと社会教育委員が、地区公民館を支援していますというような報告を中央公民館から受けても、地区公民館にコメントできないということがありました。ですので、7ページの地区公民館 2-2-(4) 地区公民館という欄がそれを受けて今年から挿入された部分になっています。こういうところで社会教育委員も発言してきたことによって実践が見えるようになっていき、また、本来であれば地区公民館の館長さんみんなに来ていただいて今のような報告をされるのが本来の筋なのだと思うのです。なかなかそうはいきませんが、この報告というのがどんどん見えるような形になっていき、それについてまた我々も支援していければいいなと思います。そのほか博物館に関しましても、その都度社会教育委員には色々案内もいただいておりますので、今後もそのようになっていくと思います。

これを踏まえて何かご質問、ご意見等ありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(小山内委員)

単純なお願いです。小学校の立場として、色々な施設に弘前市内の小学生在が、名札をつけて行けば無料になるというのはとてもありがたいのですが、今、安全上から子どもたち、実は名札を学校に置いてある学校が多いのです。つまりそのためだけに持っていく。学校単位で行く場合にはほぼ先生方がついて行くので、前もって話もしているので名札を付けていなくても入れるのですが、夏休み中だと子どもたちがそういった施設を利用する時に名札というと、わざわざ名札を持っていきなさいとかそういうパターンになるので、図書館で行けば貸出カードみたいなもので何か工夫できないかなど。家に持ち帰ってもいいようなものが何かあれば便利かと前から思っていました。校長会でも、いつ、これをどこにお願いすればいいのか分からなくて、ちょっと感じてきたので。実際名札を持ち出すと、2枚買わせて1枚は家用とかそういうパターンも出てきましたが。その辺りを検討していただければ大変助かります。

(議長)

この件に関しましてはいかがでしょうか。

(生涯学習課長)

その施設によって色々取り扱いがあると思いますので、社会教育施設だけであれば我々のところでも話はできるのですが、それ以外のところも関わってくるとと思いますので。

(小山内委員)

ただ、今のところで使う施設というと、博物館と、市民プールも社会教育施設の中の一つなので。担当は違うと言ったけれども、それはうまく話しできるのではないかなど。子どもたちがよく利用するのはそうい

うところですね。名札の代わりになるものを何か検討していただければ。

(生涯学習課長)

社会教育関係施設、そうすると体育施設も含めてでしょうか。

(小山内委員)

体育施設も含めてですね。

(議長)

つまり料金と関わる場所ですね。

(小山内委員)

無料で使えるという所が。市内の小、中学生が無料でというのが、一応名札となっています。証明するものが。

(議長)

なるほど。

(小山内委員)

ところが、名札が今、色々な問題で登下校時もつけていない、学校に来てから自分の名札をつけているのが多いので。そういう学校が増えてきているのですよ。不審者対策もあって。

(議長)

要するに、料金のかかるところが免除になるということだと思いますけれども。その辺りはまた事務局の方で引き取っていただいて、検討いただくということで。

おそらく公民館とかそういうところではないということですよ。

(小山内委員)

なにかしら検討していただければ。

(生涯学習課長)

有料施設のところで、市内の子どもたちを、ということですね。

(議長)

その他にはご質問とか何かありますか。

(高木委員)

みなさんからの説明を通して聞いて、色々な事業を一生懸命頑張ってもらってるのだということは分かったのですが。例えばこういう資料を見る時に、継続して行っている主要事業あるかと思うのでこの一つの評価の基準というのですかね、どのくらいの人に関わったのか、というのを知りたいなと感じました。それは、これから今年度把握していく、次年度の資料に載せる、備考か何かで載せるというのは難しいものでしょうか。例えばほとんど誰も参加していない事業があるのだとか、逆にこの事業はすごいというのが見えてくるかと思います。ここに書いている内容で想像がつくものもありますが、ちょっとイメージが湧かない事業も、話を聞いただけでは出てこないものもあるのです。そういう

ものについては何かしらわかる方法があるのでしょうか。

昨年でしたかね、同じ日だったのですけれども、堀越城の城跡を公開していて文化財課の職員から説明があったのですが、午前それを聞いて、午後は博物館の記念講座に出させていただきます。全く同じ話題が出たものですから、とても分かりやすくいい講座だなと思いました。講座だけではなくて、前があったから後ろが分かりやすかったのですが、年度の色々な計画を立てる際に、そういう繋がりをもった計画をヨコの連携というのですかね、考えてもらうと、学ぶ方はすごく現実味があって楽しいです。例えば、土手があって空堀があるのですが、午前の講師の先生がその作り方というのを説明してくださったのですけれども、それを実際に見ていますので話がすごく分かりやすい。寄せて土手を作っているの、空堀の方は土が無くなっているわけです。土手の方が高くなっているのを実際に見て、話を聞くと現実味があっていい勉強になりました。昨年は歴史講座がすごくいい企画だったなと思っています。1回だけちょっと参加できなかったのですけれども、すごく楽しかったです。人数がこのくらい来ていましたよというお話がありました。そういう話を聞くと我々としてはすごく助かるなと感じました。以上です。

(議長)

ありがとうございます。この件に関しまして事務局の方からお願いいたします。

(生涯学習課長)

まず、1点目の各事業の実施状況や評価の関係につきましては、第2回会議の中で、新しい総合計画を作って教育振興計画を作るにあたって、色々これまでの事業を評価してきているものもお示ししながら、新しい計画をどうしていくかということをお示しして話をしたいと思います。詳しい内容につきましてはその時お知らせしたいと思っております。本日の資料はあくまでも弘前の社会教育の概要という事で記載しているもので、そこまで細かくするとページが増えていきます。これにはそこまで載せる事はできませんが、次回の開催の時にはそういう形でお示ししたいと思っております。それでも不足だとおっしゃられるかもしれませんが、社会教育委員の会議は資料が膨大になってしまっていて、説明も長くなりがちになっておりますので、できるだけ少なくして簡潔にしていきたいと思っております。

それから、文化施設の関係の事で分かりやすい講座をもっとやるべきだというお話ですけれども、文化財課とも協議をしながら、これから文化財をどうやって活用するのかということについて連携を深めて、こういう講座を連携してやる、ということで出来ないかと協議して進めていきたいと思っております。以上です。

(議長)

今お話にありました総合計画の方でも、委員からの意見ということで、定性・定量評価にも関わっていくということになると思います。実績、人数だけではなくて、どんな学びがあったのか、ということも含めて検討していかなければいけないので、またその時にご意見いただければと思っております。他にはいかがでしょうか。

(佐藤委員)

提案ですが、3期目になってようやく社会教育委員の年間の動きというのが捉えられるようになりました。今回5名の方が新規でなっておりますが、小学校、中学校の先生方はだいぶ詳しい方もいますけれども、私たち一般人にとっては分かりづらいです。年間、決められているのは、会議が2回か3回。あとは公民館職員等に関わる研修会、中南の研修会、そして県の研修会。その大きな会議等を基に、自分で年間の行事を作ってみました。更にその中にまなびいも入ってきます。義務付けられているのは大きく年3回の会議の出席なのですが、案内をもらったまなびいの会に参加しましたら、学区まなびいの方が思いを語っておりました。

また、公民館をちょっと自分でも把握したいと思って回ってみました。その時非常に参考になりましたのが、「弘前の社会教育」の後ろにある公民館の配置図とか、社会教育関係の施設。それから常々思うのですが、できれば更に小・中学校の配置図があれば。私は青森市で生まれた人間ですので弘前市を把握するのに苦労したのですが、これに小・中学校の配置、あるいは別個でもいいのですがあれば、公民館と小学校あるいは住民の方が関わっている様子が良く見えてくるし、イメージしやすい。

できれば次回の集まりの時でもいいですので、年間の私たちの関わりとか示した資料があればと思います。

(議長)

はい。

(生涯学習課長)

年間のスケジュールの件と各市内の関係施設が分かるようなものにつきましては、前にも1度お出ししておりましたがそれをまた最新のものにして次回に渡す、あるいは郵送する機会があれば送らせていただきたいと思っております。

(議長)

地図に関しましては、社会教育委員の会議だけの問題ではなくて、おそらく教育自立圏とかを考える、コミュニティースクールということ考えると、ビジュアル的に教育委員会全体で共有していなければいけないことではないかなと思います。地域と学校が連携していくというところで、エリア単位でというものがカウンターパートになるのかということを示していくという意味でも。ですので、これは生涯学習課だけに留

めずに全体に対しての提案という形で佐藤委員のご提案を受け止めていただいてもいいのではないのかと思っておりました。他にいかがでしょうか。

(松本委員)

以前も聞いたかもしれないのですが、地域学校協働システムに関しての生涯学習課とか学校づくり推進課との分担の具合をお伺いしたいなと思います。例えば地域学校協働活動に対する様々な、関わっている人たちへの研修等どうするのかとなった時に、生涯学習課の担当なのか、学校づくり推進課の担当なのか、どちらなのかというところでお伺いしたいのですが。

(生涯学習課長)

業務の分担としては、学校づくり推進課のほうで教育自立圏の構築の関係を進めているところで、小中一貫教育そしてコミュニティースクール、学校協働システムということで、併せて進めています。その中でも特に地域学校協働システムについては、学校だけではなく地域との関わりが強くなるので、完全に分けられるかといえば、お互いにやらなければならない部分がかかなり多くなってきており、時と場合によっては学校づくりと協力しながらやっているものもあります。研修会につきましても、学校づくりに係わる研修会など県の方で研修会がある場合はこちらの方からお知らせして、主に地区公民館の方々とか学区まなびいの方々という生涯学習課の所管になっているので、その辺は連携しながらやっているというのが現状です。そういう意味ではくっきりきれいに分かれているわけではなくて、将来的にはそのように分ける必要はなくて、生涯学習課なら生涯学習課の方で地域学校協働システムを進めていくというのがいいのではないのかなとは思っております。そこはすり合わせはきちんとしていないので、少し曖昧な感じになっているというのが実情です。

(松本委員)

なぜそういう事が気になったのかといいますと、学校に係わる大人の方々をどう支援していくのかといった時に生涯学習課のほう得意なかなというところと、学区まなびい講座に関してはまだ代表者会議等があつて、顔を合わせる機会があるのだろうなと思うのですが、それ以外でいわゆる公民館職員の方々にコーディネーターをされている職員の方もいると思うのですが、そうした方々への力量形成の機会というところがあつてもいいのかなと思います。公民館の職員に限らず地域コーディネーターの方々の力量形成というところで、何か事業化してもいいのかなと思ったというところでした。

(議長)

はい、ありがとうございます。以前の会議でも話に出ていますが、地

域とともにある学校と言っているだけで、学校とともにある地域づくりという視点が抜け落ちていきますので、生涯学習課側からどうやってアプローチしていくのかというのが見えにくいというのが今の松本委員のご意見で、そこからもう少し立ち上げていかなければいけないのではないかなというご意見だったと思います。特に弘前大学との連携の中で公民館職員研修なども行われたりしておりますので、そういったところも含めて今後ご検討いただければと思います。他にはいかがですか。

(松本委員)

もう一つ、中央公民館の子ども会リーダー養成事業、今年は高校生がいないというのが少し寂しいなというところがありました。それに関連して地区公民館では、子ども会リーダー研修会というのがあって、それはおそらく本当の意味での子ども会とのつながりでの子どもの集まりなのかなと思うのですが、中央公民館の子ども会リーダー養成事業、子ども会とは特には関係、いわゆる子ども会リーダーというよりは、ジュニアリーダー的な位置づけなのかどうか、つまり中央公民館の子ども会リーダー養成事業と、地区公民館の子ども会リーダー研修会は特に繋がりがいいのか、というところが質問です。

(中央公民館長)

高校生については、公民館の職員が各高校を回りまして、再募集をしたのですが、残念ながら参加者なしということになりました。子ども会のリーダー養成の部分ですけれども、地区公民館と中央公民館と関係はございます。ただ、子どもの数が減っているというのがありまして、中央公民館の方には、小学校区でのリーダーとか中学校区のリーダーとか、より広い範囲で活躍していただけるリーダーという方面を目指しているということになります。

(佐藤委員)

太田市との連携はありますか。

(中央公民館長)

隔年で実施している太田市との交流事業にもリーダー養成の部分はあるのですが、本来であれば、子ども会のリーダー養成事業を毎年できればいいというのが、中央公民館としての思いです。

(議長)

今の件に関わって何か他にありますか。

(小山内委員)

弘前の地域的に子どもたちの子ども会はまだ無い、親が運営していません。子どもたちが運営しているのではない。育成委員がいて、育成委員の方々が一生懸命頑張ってくれるのだけれども、昔みたいな子どもたちが運営して子どもたちに色々な事をやらせてというのは無いので、つまりそのようなリーダー研修会に集まってくる子は、その時各地域で募集

しているのです。誰が行かないか、というので。子ども会の組織の中からあがってきた子で、是非次の時代のリーダーになってというのではないので、そういう繋がりというのは、今は無い。多分どこでも困っています。小学生位だと「行きなさい」と言えば、何人かの子たちは喜んで行ってくれる子もいるが、さすがに中学生、まして高校生となると部活とか色々なものが忙しくて出られないというのが現状じゃないかなと。昔、自分が小さい時に子ども会でとても活躍してくれた人がいて、野呂部長も本町の子ども会ですごく活躍していたので、そういう人たちがやっていたのをもう一度思い出して、何かしら手立てを打てればまた変わっていくのではないかと思います。今の形のままいくと年々減っていくだけで、研修会に出た子たちが次の本当の意味でのリーダーになっていくかという、なかなか難しいかなという感じを受けました。

(松本委員)

子ども会が衰退しているのだと思うのですけれども。小・中学生向けの事業というのは比較的手厚いのかなという感じではいるのですけれども。子どもクラブ事業、ウィークエンド子どもクラブなど。高校生以上になると、元々人が集まりにくいというのがあるのでしょうかけれども、高校がそもそも統廃合してきているので、そういう中で高校生の活躍というのが地域で求められてきていると思いますので、何か自由な仲間づくりを目的とした、中央公民館に限らないと思うのですが、あってもいいのかなと、願望ですが思いました。

(議長)

ありがとうございます。

先ほど高木委員、手を挙げてらっしゃいましたけれども。

(高木委員)

雑談的な話で申し訳ないのですが、先ほど高岡の森弘前藩歴史館10,731名でしたか、すごいなと思って聞いたのですが、車があればちょっと行けば見ることができるのです。しかし、たまたま車のない日にバスで行って見たら、バス代が高い。また、高岡を経由するバスがほとんどない。行ったら休みだったのですが、地元の人であれば車で行くので。立派な物なので見たいと思いますが、県外から来た方が、例えば津軽の歴史というものに少し触れたいなと思って来た場合、非常に足を運びにくい。そのコースの中に入れないという事が十分考えられたものですから、何かしら、これからご検討の材料にさせていただきたい。

(博物館長)

バス会社の方には連絡してお願いして、百沢に行くバスを全部、高岡の森の前を通って行けないかという要望はしております。また、百沢のあそべの森いわき荘にお泊りの方であれば、いわき荘のバスで送迎はしていただいておりますので、そちらの方を活用していただければ。

	<p>要望はあるのですが、申し訳ないのですがなかなか行政的に難しいところがあります。</p> <p>(高木委員)</p> <p>バスの時刻表を見ると、日に3本しかない。しかも、朝と夕方です。間が無い。他県の人だと分からないですね。</p> <p>(博物館長)</p> <p>他の路線は、旧百沢街道まで出ないと。</p> <p>(議長)</p> <p>非常に重要なご意見だったかなと思います。チケットを見せればタクシー代が半額になるとかそういうような、何もバスに限らないやり方もあり得るのかもしれないですけども。是非、公共交通機関とも絡めてご検討いただいて。連携というところが先ほどありましたけれども、首長部局とも関わっていただければと思っております。ご意見ありがとうございました。よろしいでしょうか。</p> <p>本日の協議事項につきましては、これで終了とさせていただきます。</p> <p>(生涯学習課課長補佐)</p> <p>これをもちまして、平成30年度第1回弘前市社会教育委員会議を閉会いたします。</p> <p>本日は大変お疲れ様でした。</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議は公開 ・傍聴者なし